

第1回 八戸港港湾脱炭素化推進協議会 議事概要

日時：令和5年9月11日 13:30～15:30

場所：八戸港商工会議所 3階 ホール

【議事内容】

1. 協議会設置要綱の変更
2. 議事
 - ・第1回 CNP 形成協議会及びワーキンググループの議事概要
 - ・八戸港港湾脱炭素化推進計画（素案）
3. カーボンニュートラルレポートに関する情報提供

【主要意見】

1. 資料2 14ページの太陽光発電導入の備考欄に「要保険保証範囲確認・強度・日照時間調査」と書いているが、促進事業の調査票提出後の情報収集により、パネルの設置を予定している倉庫が塩害地区であることから、メーカーによっては「太陽光パネルの納品を見合わせる」「設置はするが性能保証はできない」などのケースがあることが確認された。一方で海沿いの地区に太陽光発電施設が設置される事例もあるため、「塩害地区へのメーカー保証等を確認」に記載を修正してほしい。

(対応方針)

→了解した。事務局においても塩害対応の太陽光発電設備に関しての情報が入手できれば、皆様に情報提供したい。

2. 資料3 12ページのリーファー電源の所有・管理者が「民間事業者」とされているが、「県」管理ではないか。表の内容について確認・修正をしてほしい。

(対応方針)

→リーファー電源は「県」の施設であるため修正する。その他にも誤表記がないか今一度確認したい。

3. 中期の目標設定について、自社内で検討した感覚では2030年から2040年でCO2排出量を半減させるというのは厳しいように思える。特にCCUS関連技術の開発が中途であることを踏まえるとハードルが高いのではないか。

(対応方針)

→仰るとおりCCUS関連技術は開発中のものであり、現時点ではハードルが高いとも考えられるが、一旦この値で目標設定したい。計画公表後に開発の進捗状況を見ながら目標を見直すことを視野に検討を進めたい。

4. 資料2 18ページ中の「CNP認証制度の活用」はどのようなものを想定しているのか。

(対応方針)

→港湾局で、今後数港のコンテナターミナルへの試験導入を検討している模様。荷役機械の脱炭素化や照明のLED化等の導入状況によって最高ランクのプラチナムからゴールド、シルバー、サーティファイドまで4段階にランク付けされると聞いている。具体的に何を実施していくかという方針は現時点で未定である。

5. 資料2 P18「水素・アンモニア等の関連産業を誘致」と記載があるが、想定している企業は水素・アンモニア等の「利用する側」の企業を指しているのか、それとも「供給する側」を指しているのか。仮に「利用する側」を指しているのであれば、個社でなく地域で連携することで大量需要を見込めるため、エネルギーのコストを下げる事が可能になると思われる。

(対応方針)

→まずは、次世代エネルギーが何になるのかにもよるため、受入基地となる供給する側の企業に来ていただき、続いてこれを利用する企業にも広く来ていただきたい。具体的には今後検討していく。

(発言・対応方針に対する意見)

→水素・アンモニアの輸出入・移出入の拠点としての発展も大いに期待しているので、需要と供給の両事業者の誘致を是非検討してほしい。

6. アンケートとヒアリングの調査対象は何件くらいか。

(回答)

→アンケート調査は30件程度を対象に実施。そのうち5者を抜粋してヒアリング調査を実施した。

7. 緑地等によるCO2吸収量は拡大できる余地はあるのか。

(回答)

→2013年度以降、沼館緑地の整備分で増えている。現在具体的な整備予定はない。また、緑地のCO2吸収量の単位が「トン」であるのに対し、CO2排出量の単位は「万トン」と大きく差がある。必要となる緑地の整備は進めていくが、CO2吸収量の増加による削減効果は小さいと考えられる。